

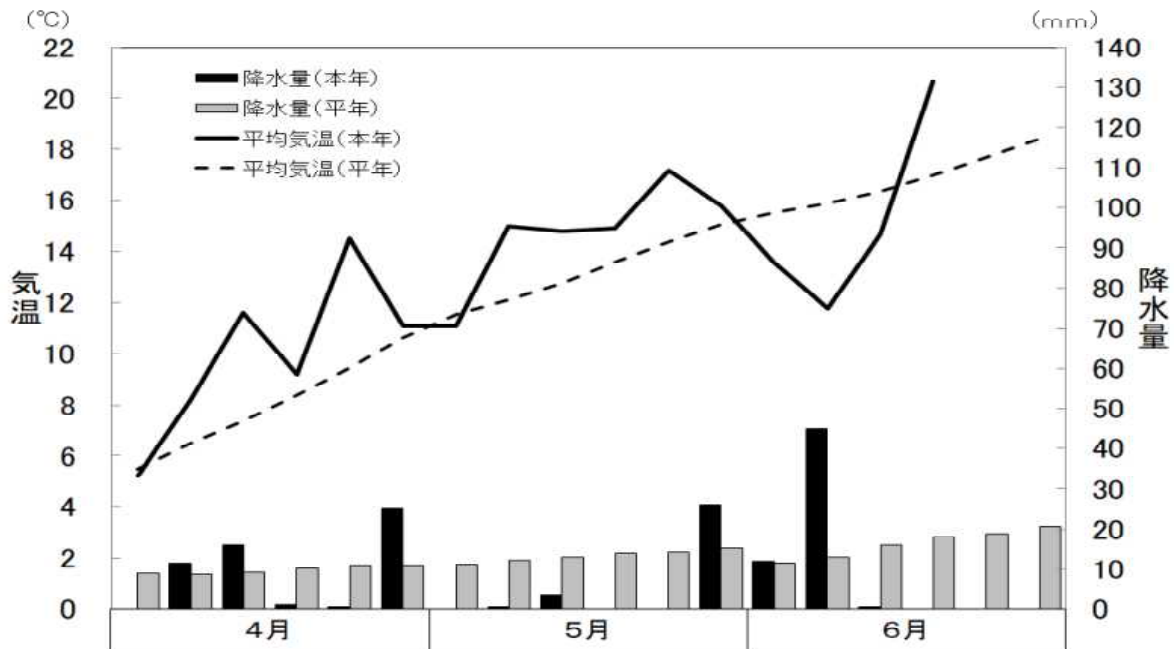
上北農業生産情報 第3号

令和4年6月21日
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

【農作業中の熱中症に注意しましょう!!】

- 日中の気温の高い時間帯は極力避けて作業を行いましょう。
- 作業前・作業中の水分補給とこまめな休憩を取りましょう。
- 屋外では帽子・吸汗速乾性素材の衣服を着用し、屋内では送風機を活用しましょう。
- 作業は2人以上で行い、単独作業を避けましょう。

気 象



【半旬別気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

《5月》

- ・平均気温、日照時間は、期間を通して平年を上回った。
- ・降水量は、期間を通して平年を下回った。

【5月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	13.0	11.8	19.6	17.7	6.0	5.9	105.7	63.3	0.5	23.5
中旬	14.8	13.2	21.7	18.8	8.7	7.8	79.4	62.7	3.5	27.1
下旬	16.4	14.7	22.0	20.3	11.5	9.6	85.7	72.7	28.0	29.6

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均、合計)

《6月上・中旬》

- ・平均気温は、上旬は平年を下回り、中旬は平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬は平年を下回り、中旬は平年を上回った。
- ・降水量は、上旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。
- ・東北北部の梅雨入りは平年並みの6月15日で、前年より4日早かった（6月15日、仙台管区气象台発表）。

【6月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	12.7	15.7	16.5	20.9	9.6	11.0	49.7	59.7	57.0	24.7
中旬	17.6	16.7	23.0	21.6	12.8	12.6	60.4	48.8	0.5	34.0

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報（6月18日から7月17日までの天候見通し）

令和4年6月16日 仙台管区气象台 発表

- 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。
- 気圧の谷や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ないでしょう。

水 稲

《生育状況》

- 1 管内の田植え最盛期（50%進ちょく）は、平年より1日早い5月20日であった。
- 2 生育観測ほの田植え時の苗質は、苗長は平年をやや上回り、葉数は平年並みであった。
- 3 活着は順調であったものの6月上旬が低温少照で推移したため、生育観測ほの6月10日現在の生育は、草丈及びm²当たり茎数が平年を下回り、葉数は平年並みとなっている。

【生育観測ほの生育状況】

品 種	年次	田植え時		6月10日現在			
		苗長 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	m ² 茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)
まっしぐら	本年	19.2	3.4	32.2	5.9	123	5.8
	平年	18.9	3.3	34.7	5.9	127	5.9

注) 管内生育観測ほ13地点の平均値、平年値は各地点の平年値(前3か年～前17か年の平均値)の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 水管理

- ア 低温時は5～6cmのやや深水にして保温に努め、高温時（午前9時の気温が20℃以上）は3cm程度の浅水にし、水温と地温の上昇を図り分けつを促進させる。
- イ 株当たり20本程度の茎数を確保した水田では、天候の良い日を選び、中干しを行う。茎数が不足している水田や低温が続く場合には、中干しを行わない。
- ウ 中干しは、田面に軽くひび割れが入る程度とし、幼穂形成期前（7月上旬頃）には必ず終了する。

2 病害虫防除

ア いもち病

- ・ほ場に放置されている補植用苗は、葉いもちの発生源となるので速やかに処分する。また、葉いもちは、7月上旬頃から見られることが多いので、ほ場をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。
- ・葉いもちが例年発生する水田で、水面施用剤の散布を予定している場合は、6月末までに散布する。

イ 斑点米カメムシ類

7月中旬頃までに、畦畔や水田周辺の雑草地などの草刈りを地域ぐるみで行い、斑点米カメムシ類（アヒゲホトリカスカメなど）の発生を抑える。

3 肥培管理

幼穂形成期前のつなぎ肥は、倒伏や病害虫の発生要因となるので絶対に行わない。

4 雑草防除

水田内に雑草が多く残っているほ場は、雑草の種類、草丈・葉齢を確認して、中後期剤を適期に散布する。

小麦

《生育状況》

- 1 生育観測ほの出穂期は5月17日で平年より5日早く、開花期は5月24日で平年より6日早かった。
- 2 うどんこ病の発生は平年並みで、その他病害虫の発生は全般的に少ない。
- 3 生育観測ほの6月10日現在の生育は、稈長は平年並み、穂長及び穂数は平年を上回っている。

【生育観測ほの生育状況（品種：ネバリゴシ）】

調査地	年次	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	6月10日現在		
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
十和田市相坂	本年	5/17	5/24	(7/ 7)	80.0	9.0	664
	平年	5/22	5/30	7/ 8	79.9	7.8	593
	前年	5/16	5/22	6/29	84.0	7.9	658

注) 平年値は平成14年～令和3年までの平均値

本年の成熟期は、出穂後の積算気温830℃到達予想日

《今後1か月間の主な作業》

1 収穫

ア 収穫適期は出穂後の積算気温で830～950℃、出穂後日数で51～55日が目安である。出穂後の積算気温から推測する管内の小麦の収穫適期は、7月6日～15日である。

【積算気温到達日（十和田アメダス）】

積算気温	出穂期		
	5/15	5/17	5/19
830℃	7/ 6	7/ 7	7/ 9
950℃	7/12	7/13	7/15

注) 6月19日までは本年値、6月20日以降は平年値で積算

イ 収穫が早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび病や穂発芽の発生により品質が低下するので、適期に刈り取る。

ウ 刈取は、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下（穂を手でもむと脱粒しやすく、子実は爪で割れにくい状態）になった頃をめぐり行う。

エ 倒伏や穂発芽した小麦は、別刈り、別乾燥、別調製する。

大豆

《生育状況》

- 1 一般ほ場のは種作業は、例年並みの5月末から始まったが、降雨により作業が遅れ、最盛期は6月8日頃となった。また、晩播狭畦栽培のは種は6月16日頃から始まった。
- 2 生育観測ほのは種期は、平年より6日遅い6月12日で、出芽期は平年より5日遅い6月20日であった。
- 3 一般ほ場の出芽は良好である。

【生育観測ほの生育状況（品種：おおすず）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	出芽期 (月/日)
十和田市切田	本年	6/12	6/20
	平年	6/6	6/15
	前年	6/4	6/10

注) 平年値は平成13年～令和3年の平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 中耕・培土
1回目は、本葉2～3葉の展開期(は種後1か月頃)に子葉が完全に隠れる程度まで行い、2回目は本葉5～6葉の展開期(例年7月15日頃)に初生葉が隠れる程度まで土寄せする。
- 2 病害虫防除
アブラムシ類や食葉性害虫の防除に努める。

ながいも

《生育状況》

生育観測ほの植付期は、平年より3日早い5月9日で、萌芽揃い期は平年より3日遅い6月8日であった。

【生育観測ほの生育状況（庄司系1年子芽付き種子）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽揃い期 (月/日)
東北町子ノ鳥平	本年	5/9	6/8
	平年	5/12	6/5
	前年	5/12	6/2

注) 平年値は平成25年～令和3年の平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 第1回目の追肥
ア 早植栽培(頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け)
種子の養分が少なくなる植付後50～60日頃が適期で、6月中旬～下旬頃、新しいも長3～5cm、つる長100～150cmを目安に、窒素成分で10a当たり5kg程度行う。
イ 普通栽培(子いも：5月中旬～6月上旬、切りいも：5月下旬～6月上旬植付け)
子いもは植付後45～55日頃(7月中旬頃)、切りいもは植付後55～65日頃(7月中旬～下旬頃)が適期で、新しいも長10～15cm、つる長200～220cmを目安に、窒素成分で10a当たり5kg程度行う。なお、低温によりつるの伸長が遅れている場合はいも長を目安に行う。

にんにく

《生育状況》

- 1 生育観測ほの6月10日現在の生育は、草丈及び茎径が平年並み、生葉数は平年をやや下回っていた。肥大状況は球径及び球重とも平年を上回っていた。
- 2 収穫作業は、早いほ場では6月15日頃から始まっている。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	年次	6月10日現在				
		草丈 (cm)	生葉数 (枚)	茎径 (mm)	球径 (mm)	球重 (g)
七戸町榎林	本年	83.0	7.3	21.6	71.0	126.7
	平年	82.6	8.1	20.7	54.2	71.8
	前年	82.5	7.6	17.3	52.0	61.6

注) 平年値は平成8年～令和3年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 収穫
適期より収穫が遅れると裂球が多くなるため、生葉数を6枚以上確保し、盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平になった頃を目安に収穫する。
- 2 乾燥
ア 暖房機の温度設定は上限を35℃とし、乾燥施設内の温度が40℃以上にならないようにする。
イ 乾燥施設内の通風・除湿は確実にを行い、乾燥中の障害発生（煮え症状など）の防止に努める。
ウ イモグサレセンチュウの被害を軽減するため、収穫後直ちに根を切り取り乾燥する。
- 3 病害虫発生ほ場の次年産の対策
ア イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病の発生が見られたほ場のにんにくは、種子として使用しない。
イ これらの病害虫が発生したほ場での連作はしない。ただし、別ほ場が準備できない場合は、土壌処理剤を散布した上で健全種子を植え付け、被害の軽減に努める。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの生育は、は種期が遅く6月上旬の低温により草丈、葉数ともに平年を下回っている。病害虫の被害は見られていない。
- 2 一般ほ場の生育は概ね順調であるが、発芽にばらつきがあるほ場が見られる。アブラムシ類が5月下旬から見られている。

【生育観測ほの生育状況（品種：柳川理想）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	6月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/11	7.6	0.7
	平年	4/30	10.6	1.9
	前年	5/1	10.6	2.2

注) 平年値は平成24年～令和3年の10か年平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 中耕除草・培土等を行う。
- 2 ヒョウタンゾウムシ類及びアブラムシ類の防除を徹底する。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの6月10日現在の生育は、5月の乾燥と6月上旬の低温により、草丈、茎数ともに平年を下回っている。
着蕾期、開花期はそれぞれ平年より3日早かった。病害虫の発生は見られない。
- 2 一般ほ場はのマルチ栽培の開花期は6月第1～2半旬で、生育は順調に進んでいる。
病害虫は特にみられない。

【生育観測ほの生育状況（品種：メーカーイン、肩黒透明マルチ）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	着蕾期 (月/日)	開花期 (月/日)	6月10日現在	
						草丈 (cm)	茎数 (本)
三沢市庭構	本年	4/ 3	5/ 3	5/24	6/ 6	57.5	1.7
	平年	4/ 4	5/ 6	5/27	6/ 9	64.8	2.5
	前年	3/27	5/ 4	5/25	6/ 6	76.3	3.2

注) 平年値は平成24年～令和3年の10か年平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 疫病を中心とした病害虫の防除を徹底する。
- 2 刈り取りによる茎葉処理は、収穫5～7日前に行う。茎葉枯凋剤を用いる場合は、各剤の使用時期に注意する。
- 3 茎葉の枯れ、いもの表皮のコルク化を確認してから収穫する。

りんご

《生育状況》

十和田市米田地区「ふじ」の6月11日現在における果実肥大（横径）は3.1cmで、平年比125%、前年比115%であった。なお、黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は3.3cmで、平年比127%、前年比103%となっている。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	品種	6月11日現在の果実肥大(横径)				
		本年 (cm)	平年 (cm)	平年比 (%)	前年 (cm)	前年比 (%)
十和田市米田	ふじ	3.1	2.5	125	2.7	115

注) 平年値は平成28年～令和3年の6か年平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 摘果
ア 果実の生育を確保するために、仕上げ摘果は早めに終える。
イ 一通り摘果を終えた園地でも、収穫時まで随時見直し摘果を行う。
- 2 病害虫防除
ア りんご病害虫防除暦に基づき、計画的な防除を行う。
イ 今後8月末までの防除では、モモシンクイガの防除剤を毎回混用する。

りんどう

《今後1か月の主な作業》

1 ネット上げ

生育に合わせてネット上げを行う。地面からの高さは1段目が約30cm、2段目が約50cm、3段目が約80cmとする。

2 かん水

干ばつ気味で経過している場合はかん水を行う。特に新しく苗を定植したほ場では、こまめにかん水を行い、乾燥しないようにする。

3 病虫害防除

前年に褐斑病が発生したほ場は、本年も発生しやすいため予防防除に努める。また、ほ場やその周辺の雑草がアザミウマ類やハダニ類の発生源となるため、除草を行う。

グラジオラス

《今後1か月の主な作業》

1 定植ほ場の選定と準備

ア 日当たりと排水性の良いほ場を選ぶ。また、連作障害が出やすいので、過去数年間作付けしていないほ場を選ぶ。乾腐病が発生したほ場では栽培を避けるか土壌消毒を行う。

イ ベッド幅は100cmとしマルチを張る。12～15cm目のフラワーネットを張る。

2 定植

腐敗球を注意深く取り除き、健全なものを定植する。5cm程度の深さで芽を上にして植え付ける。

牧草

《生育状況》

生育観測ほ（オーチャードグラス）の出穂期は平年より4日早かったが、1番草の10a当たり乾物収量は357kgで平年比97%であった。

【生育観測ほの生育状況（オーチャードグラス）】

調査地	年次	出穂始 (月/日)	出穂期 (月/日)	刈取日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市米田	本年	5/13	5/17	5/23	84.0	357
	平年	5/18	5/21	5/24	83.0	368
	前年	5/14	5/17	5/21	78.5	342

注) 平年値は平成24年～令和3年の10か年平均値

《今後1か月の主な作業》

1 1番草収穫及び追肥

牧草（チモシー）は、遅くても開花始期までに刈り取り、乾草又はサイレージに調製する。また、2番草の収量を確保するため、刈取後は速やかに追肥する。

2 雑草防除

ギシギシ等の雑草が多く見られる場合は、除草剤を散布する。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほでは、非常に乾いた状況では種されたが順調に出芽している。

【生育観測ほの生育状況（品種：パイオニア115）】

調査地	年次	は種日 (月/日)	出芽期 (月/日)
東北町北栄	本年	5/21	5/27
	平年	5/21	5/27
	前年	5/14	5/23

注) 平年値は平成23年～令和3年の10か年平均値
(ただし、H24年は蒔き直しのためデータから除外)

《今後1か月間の主な作業》

雑草が目立つほ場では、雑草の種類に応じた生育期処理用の除草剤を選択して散布する。